

山中竹春市長誕生でカジノ付 IR 誘致ストップ、市民の声が活きるヨコハマ新時代へ  
～横浜市長選挙の開票結果について～

平和と民主主義をともにつくる会・かながわ

横浜市長選挙は、8月22日投開票され、市民と野党の共同候補・山中竹春元横浜市立大学医学部教授が、50万票以上を得て大差で勝利しました。

山中竹春さんは、横浜をコロナとカジノから守る会から立候補し、立憲民主党が推薦、日本共産党、社会民主党、緑の党、新社会党が支援し、IRカジノ誘致に反対を貫く横浜港ハーバーリゾート協会やカジノ反対の市長を誕生させる横浜市民の会、STOP カジノ横浜市長選共同アクション、私たち平和と民主主義をともにつくる会・かながわ（以下ともにつくる会）など数多くの団体が応援しました。

立候補者は、山中竹春さんのほかに、菅首相が全面支援する小此木八郎氏（元国家公安委員長）、現職の林文子市長ら、市長選史上最多の8人でした。再選挙の可能性もささやかれましたが、投票締め切りと同時に当選確実が出る山中氏の圧勝となりました。

ともにつくる会は、私たちの訴えに共感をいただき一票を投じていただいた有権者の皆様に感謝を申し上げますとともに、山中竹春さんの当選に向けて昼夜を分かたずご奮闘された皆様に敬意を表し、喜びを分かちあいたいと思います。

選挙の争点は、カジノ付IR（以下カジノ）誘致の賛否と共に、新型コロナウイルス感染爆発への対応が大きかったと考えられます。投票日の2年前の8月22日、林市長が白紙という公約を破ってカジノ推進を宣言して以来、林市長は、世論調査で約7割が反対という市民の声を無視してカジノ誘致を推し進めてきました。また、感染が拡大し続ける新型コロナに対して、菅政権と林市長が無策なことへの不安と不満も日増しに大きくなりました。この2つの争点が市民を投票に向かわせたと考えられます。投票率は49.05%と前回より11.84%増え、投票者の43%を占める無党派層の39%が山中竹春さんに票を投じました。

林市長が公約を破りカジノ推進表明して以降、カジノ反対運動は、住民投票直接請求署名・市長リコール請求署名が同時に展開される憲政史上初の盛り上がりとなり、2つの署名で延べ約28万筆を集めました。ともにつくる会は、主に市長リコール請求署名に取り組みました。

こうした、市民の粘り強い自主的な取り組みが、カジノを推進してきた小此木氏までもが“カジノ誘致反対”を掲げて立候補せざるを得ない市民世論を形成してきました。

山中竹春さん圧勝の要因は、市民と野党の共同をつくった市民の運動にあります。市民と政党の共同が崩れそうになる局面もありましたが、ともにつくる会も主催団体の1つとなった7月18日「選ぼう！カジノ反対の市長を」横浜パレードには、立憲民主党、共産党、社民党にくわえ、市民団体、個人など250人が参加しました。7月25日「市長選勝利をめざす市民のつどい」にも山中竹春さんを応援する全ての政党と市民団体が勢ぞろいしました。

横浜市の各区で、山中竹春さんと市民団体、共産党、社民党などが一緒になった街頭宣伝が工夫され、多くの市民が参加する選挙戦がつくられました。ともにつくる会では、カジノ誘致や温かい全員対象の中学校給食の実施、新型コロナウイルス感染時の「自宅療養」という名の「自宅放置」への賛否など、シールを貼ってもらい対話する「横浜市政・シール de アクション」をJR鶴見駅近くで選挙期間中毎日実施しました。こうした取り組みが山中竹春さんの勝利に結びついたと私たちは確信しています。

命とくらしを守る横浜市政は今からです。山中竹春さんが訴えた「IRカジノ断固反対、即時撤回」「データと科学的知見に基づくコロナ対策」「3つのゼロ」などを着実に実行することがこれからの課題です。

平和と民主主義をともにつくる会・かながわはその実現のために一層の取り組みを進めます。

2021年8月23日